

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和4年度第2回相模原市子ども・子育て会議		
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8315 (直通)		
開催日時		令和4年10月27日(木) 午後6時から午後8時30分		
開催場所		現地出席とオンライン出席によるハイブリッド開催 (現地会場: けやき会館2階 職員研修所 大研修室)		
出席者	委員	13人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	13人(こども・若者未来局長、こども家庭支援担当部長ほか11人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	2人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 第2次相模原市子ども・子育て支援事業計画の実施状況の点検・評価及び中間年の見直しについて (2) 相模原市母子保健計画の次期子ども・子育て支援事業計画への統合について 4 その他 5 閉 会		

議 事 の 要 旨

1 開 会

2 あいさつ（こども・若者未来局長）

3 議 題

（1）第2次相模原市子ども・子育て支援事業計画の実施状況の点検・評価及び中間年の見直しについて

第2次相模原市子ども・子育て支援事業計画の令和3年度の実施状況の点検・評価及び中間年の見直しの案について、事務局から説明を行った。委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

（永保委員）資料1-1に示された計画値は、資料1-2のどの部分を見ればわかるのか。

（事務局）計画値については、今回配布した資料には載せていないため、子ども・子育て支援事業計画冊子の58ページをご確認いただきたい。

（永保委員）資料1-2には、定員が申込児童数を上回っているという記載がたくさんある。これについて、子ども・子育て会議は、数値が上回っているからよかった、とお考えか。以前の子育て会議でも申し上げたが、幼児教育・保育施設は、定員を充足して初めて安定した経営ができるという仕組みである。各施設で定員を設けるということは、必要な職員数を確保していなければならない。申込児童数が定員を下回っているということは、待機児童解消という視点だと良かった、ということになるが、職員を雇っているため、園の収入は定員を下回った分だけ減っていく。これにより、先生たちの給与にしわ寄せがいく。このことに対して、子ども・子育て会議は定員を確保するだけでなく、職員の給与はもちろんのこと、保育の質を確保していくという視点が必要だと思うが、会長はいかがか。

（片山会長）今回まずは数字の説明を受けたが、質の確保という観点は忘れてはいけないと思う。子どもたちを取り巻く環境に関して、各保育関係施設が大変貢献されたことを、市には今後、受け止めてつなげていってほしい。他の部分に関して、何が問題点かということ、委員の皆さまにはお話しいただき、直接行政の皆さんとやりとりをしていただく機会であるため、ご意見をいただければと思う。

（永保委員）園の先生たちの給与を上げるところか、下がる将来がすぐ近くに来ているということ、委員の皆さんには知っていただきたいし、量を確保するだけでは子どもたちが良質な環境で過ごすことができないということ、市の方々にも考えていただきたい。

また、令和3年度の事業の実施状況のうち、「児童相談所機能の充実・強化」、

「保育人材の確保」、「支援教育の推進」は予算額よりも決算額が大幅に少ない。

「保育人材の確保」に関して、人材が余っているというところはない。市が予算を執行できていないというのは、どこかに課題があるのではないかと思う。「支援教育の推進」に関して、個別支援が必要な子どもは、年々認知されるようになり増えているのかもしれないが、相当な個別配慮を要している。予算に対して決算額が少ないというのは、支援が計画どおりに行き届いていないのではないか。

(事務局)「児童相談所機能の充実・強化」については、新型コロナウイルスの影響により研修や相談をしづらかったことが、予算の執行が少なかった理由である。また、児童養護施設等に送致する際には、保護者の方の同意を得られないという特殊な事例がある。こういった事例があった場合は、弁護士の費用が必要となるため予算を持っているが、令和3年度は事例数が多くなかったため、決算額が少なくなっている。

(事務局)「保育人材の確保」、「支援教育の推進」については、次回の会議で回答させていただきたい。

(永保委員)現場としては、もっと支援が欲しいと思っている部分の予算執行が少ないということについて、改善していただきたい。

(朝比奈委員)2点質問したい。表だけを見ると、待機児童が少ない又は解消されているように見えるが、保留児が516人いる現状はどう考えているか。「自宅で求職活動を行っている等保育の必要性がない」といった分類があるが、本来は希望するところに入ることができなかつた方など、中身がどうなっているのか。議論が必要な部分かと思う。

もう一点は先ほど永保委員が言っていた内容だが、質の評価をどう考えているのか。質は評価しづらいところではあるが、アンケート等で確認するという単純なことでいいのか。保育者の処遇の問題や施設設備の状況、子どもたちにとって良質な環境が提供できているのかということが見えてこない。質の評価のあり方は、検討を行っていくべきではないかと思うが、どう考えるか。

(事務局)保留児童については、通常の保育所等に入った方以外で、認可外保育施設を利用している方が、希望して入園したのかどうかということは確認が十分ではないが、国で共通の分類があり、それに基づいて待機児童の数を計算している。

また、質の評価については、市の取組としてすべての教育・保育施設の職員を対象とした保育者ステップアップ研修を実施している。研修の実施にあたっては、保育所、幼稚園等各団体の役員の代表の方に出させていただいて、どうすればより職員にとって有効な研修になるかということ、年2回程度意見交換させていただき、改善しながら実施している。指導監査事務の一元化も図りながら、相談支援の充実も図っており、質の向上の一翼になっていきたいと考えているが、質の向上については皆さまからご意見をいただきながら考えていきたい。

(朝比奈委員) 保育の内容や保育人材の育成といった視点での質の向上もとても大事なことであるが、保育の質はそれだけではない。保育者の労働環境の質や、園舎や保育室の環境、園庭が確保されているかということも含まれると思う。園バスの事故があって、保育の質が議論されているが、単純にバスの事故を防ぐためにセンサーを付ければいいというだけではない。先進国の中では、少ない人数の保育者で多くの幼児を見ているのは日本だけであり、人材不足の問題を含め、保育の質とは何かということ議論していく必要があると思ひ、お話しさせていただいた。

(藤井委員) 民間学童保育についてお尋ねしたい。児童クラブへの支援については、予算額と決算額を見ると足りているように思う。9月20日に民間と市の意見交換会を開催していただき、私も参加したが、補助金をもらえていない施設があるということを知り、驚いた。補助金の条件を緩和してもらえれば、より充実した学童保育になっていくのではないか。市の児童クラブでは、小学3年生までを中心としており、今後は4年生以上も空きがあれば対象としたいという話があった。民間は4年生以上も対象としており、手厚くしていただきたいという思いがある。また、市では、津久井の方では学校から児童クラブまでタクシーがあるという話を聞いた。市の児童クラブに入ることができないため、民間の児童クラブを利用しているというお子さんの送り迎えをしているが、ガソリン代しか手当として出しておらず、民間への支援は足りていない。

(事務局) 民間の児童クラブは、企業が母体の場合は補助金を受けられないということは交付要領にも入っている。しかし、今後民間の参入をお願いするにあたっては、範囲を拡大していくことも検討している段階である。年齢拡大に伴う民間への支援について、交付金をどこまで出せるかということも様々な検討をしていきたい。

また、本来は各学校に児童クラブを置かなければならないが、児童数が少ないことにより、他の学校と合わせて実施している学校があるため、送り迎えを実施している。送迎に係る交付金は、国の対象がガソリン代であることを受け、国の方針に合わせて交付金を出している。

(藤井委員) 失礼な言い方かもしれないが、国が正しいとは思っていない。相模原市がよりよい保育をしていくために、どのようにやっていただけるかということが大事だと思っているので、お願いしたい。

(事務局) 様々な検討をさせていただきたいと思っている。

(園田副会長) 色々な児童相談所に伺うと、やはり一時保護の人数が多いようであり、支援員が人手不足で大変な状況にあるという話を聞くが、相模原市の状況はどうか。また、虐待リスクのグレーゾーンの方の予防的措置として、要保護児童対策地域協議会が重要な位置付けであるが、どのように活用され虐待予防につな

がっているのか、活用にあたっての周知の仕方等を教えていただきたい。

(事務局) 本市の虐待通告は、児童相談所に加え、各区の子育て支援センターも窓口となっている。児童相談所はより専門的な対応が必要なもの、子育て支援センターは身近な相談窓口として対応させていただいている。通告件数は、年々増加しているが、全国的に見ても同様の傾向がある。一時保護所についても、定員がいっぱいの状況であるが、本市だけではなく横浜市や川崎市など、都市部に共通している。

要保護児童対策地域協議会は、保育園、幼稚園、学童クラブ等関係機関と連携を密にして対応している。また、子育て支援センターでは、福祉の視点だけではなく、母子保健活動の中で育児不安等を含め支援しており、リスクが高い場合は福祉の視点で対応する等、同じ組織の中で対応を取ることができている。

(片山会長) 通告の件数だけ、要保護児童対策地域協議会が開催されるという解釈でよろしいか。

(事務局) 通告の内容によって対応が変わるため、状況確認だけで済むケースもある。関係機関との連携が必要な場合はケース会議を行い、足並みをそろえて対応を行っている。

(園田副会長) 都内で色々と調査研究をしていると、重大な状況になってから表面化し、通告になることがある。水面下でリスクを負ったケースもあるため、予防的視点で何ができるかということを経後の課題としていきたいと思い、要保護児童対策地域協議会のことを伺った。

(本田委員) 前々回の会議で障害児の移動支援事業について質問し、担当に確認するとのことであったが、確認していただけたか。また、お話を伺っていると、現場で働いている方々は問題意識や危機感を抱えているように感じられるが、行政の方との温度差を感じる。

永保委員から、児童数が少なくなっており、園の経営や質、先生の待遇に影響があるというお話があったが、国も少子化対策として、就労を条件とせず無園児をなくす方向での話を聞いている。無園児が減れば、園の利用者が減るという問題も少し改善されるかもしれない。働いていないから子育ての助けがいないというわけではないので、無園児をなくそうという国の動きはいい取組だと思うが、相模原市はどのように無園児を把握し、考えているのかをお伺いしたい。

(事務局) 障害児の移動支援事業については、3月に開催した会議の際の質問かと思う。お話があったことをお伝えするという回答をさせていただいたが、その後どういった動きをしているか、現在確認できていないため、次回の会議で回答させていただきたい。

無園児については、3歳6か月健診の際に把握し、保育所等をご案内しているのが現状である。こども家庭庁の開設に向け、検討会議が設置されているという

ことは承知しているが、国から方針が示された際に、対応について検討していきたいと考えている。

(野口委員) 見直し、廃止の事業がいくつかあるが、「小児医療費援護事業」は、どのように見直しされるのか。

(事務局) 今後の課題・方向性として記載しているとおおり、養育医療の対象要件の見直しを検討する。

(野口委員) 支援をやめるということではないのか。

(事務局) 支援をやめるということではない。支援の幅を広げるため、要件の緩和を検討したいと考えている。

(西谷委員) 地域子育て支援拠点事業は、令和6年度の目標を38か所から30か所に見直してしまっている。子育て広場では、コロナ禍で困っているお母さんたちが多く、利用者も増えていると感じているため、できるだけたくさん場所を作ってもらいたい。募集の方法等を工夫して、数を増やす努力をしてもいいんじゃないかと思う。実績を見ると、新型コロナの影響で利用者が少なかったとあるが、令和4年度は少し違う状況である。子育て広場にもアンケートが来たため、利用者へ渡して回答してもらったが、期間が短かったと思う。期間を長く設けてほしいという意見もあった。

(事務局) 数値の件については、一度持ち帰り検討する。アンケートの件は、時間が取れるものは時間を取るよう、検討させていただきたい。

(神原委員) 範囲が幅広いが、全てが範疇ということで良いか。

(片山会長) ご認識のとおりである。

(神原委員) 出産前から高校生くらいまでが範囲になっているが、焦点が絞り切れない。それぞれの立場で意見を言って、まとまるのか。

(片山会長) 子ども・子育て会議は、この部分だけを扱う、ということではない。子ども応援プランはこの会議で作り上げてきた。そのプランの実施状況に対して意見を出していただく立場であるため、それぞれの立場からのご意見を出していただいて良いかと思う。

(布施委員) 子育てに直接関わっているわけではないが、永保委員からご意見のあった、保育現場等で働いている方の労働環境の整備や賃金の件は、一事業所という視点で考えると、非常に重要なことだと思う。

(片山会長) 専門ではない視点からのご意見も、貴重なご意見である。働きながら子育てをするためにはどういう地域であったら良いか、お立場上思っていることがあれば、気が付いたことなどをご意見として出していただければと思う。取り組まれていることなど、情報があればご提供いただきたい。

(園田副会長) 市の計画の策定や変更を行う場合は、子ども・子育て会議の意見を聞くこととなっている。市では、計画に位置付けられていることで予算が付いてく

るため、計画に位置付けられていないものに後から予算は付かない。計画がどう策定されるかということは非常に重要なことである。それを踏まえ、計画に足りないことや余剰を確認していかなければならず、幅広い方々が集まって幅広い視点で検討していくことが必要であり、会議で発言することが大切だと思っている。

(2) 相模原市母子保健計画の次期子ども・子育て支援事業計画への統合について

相模原市母子保健計画の次期子ども・子育て支援事業計画への統合について、事務局から説明を行った。委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

(片山会長) 以前から、切れ目のない子どもへの支援ということで、ネウボラの取組を行っている市町村の事例を先行事例として提案してきたが、なかなか進んでこなかった。母子保健計画と子ども・子育て支援事業計画が統合されることにより、今後話題として扱うことができるようになったと思うが、母子保健計画には、当事者に求めるものが多いと感じる。予算等色々なことがあって難しいとは思いますが、市として子育て環境を用意し、安心して、守られて子どもを育てることがうれしいと思ってもらうことが大きな目標になってほしいと思う。

(事務局) 現状でも、母子保健計画は、子ども・子育て支援事業計画の個別計画として位置付けられており、連携している。市では、国の取組に先立ち、子育て支援センターにおいて母子保健と児童福祉の分野を統合して取り組んでいる。さらに進めるためにも、今回計画の統合を進めさせていただきたいと考えている。

(片山会長) ぜひ進めていただきたいが、当事者が何を求めているのかという視点を忘れないでいただきたい。併せて、園田副会長からお話のあった虐待の予防的取組も含めた形になっていけば素晴らしいと思う。

(園田副会長) 子育て支援センターは、包括的に対応されているということであったが、子育て世代包括支援センターとしてなのか。また、子育て世代包括支援センターは、母子保健計画でどのように位置づけられているのか。他の市町村では、「〇〇市版ネウボラ」として独自の計画を策定して進めているところもあるが、市民にとって使いやすいような相模原版ネウボラという組織が、今後の展開としてあるのか。

(事務局) 子育て支援センターは、母子保健の拠点である包括支援センターという位置付けと、児童福祉の拠点である総合支援拠点の両方の位置付けを持っている。今回の児童福祉法の改正により、この二つの拠点を統合し、母子保健と児童福祉の連携をさらに高めていくこととなったが、現状子育て支援センターは両方の機能を持っているため、国に先立っているという状況である。

また、虐待予防の取組についても力を入れていかなければならないことと認識しており、子育て支援センターを地域の身近な窓口として位置付けているため、計画の中では予防的取組にも力を入れるよう記載したい。

(馬場委員) 資料2-3の母子保健計画の成果指標をもう一度ご説明いただきたい。

(事務局) 平成30年度に計画を策定し、令和4年度までの計画としているため、その目標設定である。計画が平成30年度にスタートするため、アンケート調査は平成28年度に実施し、平成29年度に内容を検討している。基準値としては少し古くなってしまいが、ご理解をいただきたい。

(馬場委員) 虐待は内容が変わってきており、保護者にアンケートを取ると、しつけの項目などが「できている」という結果が出ていると思うが、平成と今では変わってきており、今の実態には合わないのではないかと思った。

4 その他

会長から、「世界こどもの日」について情報提供を行った。

相模原市子ども・子育て会議委員名簿

(五十音順)

氏 名	推 薦 団 体 等	出 欠	
1	朝 比 奈 太 郎	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	出 席
2	◎ 片 山 知 子	元 和泉短期大学児童福祉学科教授	出 席
3	神 原 由香里	相模原市立小学校長会	出 席
4	○ 園 田 巖	東京都市大学人間科学部准教授	出 席
5	田 川 継 世	一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	欠 席
6	手 塚 美 咲	公募市民	出 席
7	永 保 貴 章	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	出 席
8	西 谷 八千代	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出 席
9	野 口 和 代	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出 席
10	馬 場 眞由美	相模原市民生委員児童委員協議会	出 席
11	早 坂 淳 史	日本労働組合総連合会神奈川県連合会 相模原地域連合	欠 席
12	藤 井 春 美	相模原市学童保育連絡協議会	出 席
13	布 施 昭 愛	相模原商工会議所	出 席
14	本 田 恵	公募市民	出 席
15	三 浦 友 則	相模原保育室連絡協議会	出 席

◎ 会長 ○ 副会長